



令和3年4月1日

深夜に連動型住警器警報音で目覚め、避難できた事例

1 発生日時

11月〇〇日 午後7時〇〇分

2 概要

木造2階建て住宅に一人で暮らしていた男性が、2階寝室で就寝中、連動式住宅用火災警報器の警報音に気づき目を覚ました。

男性が1階居間へ行くと、こたつ掛け布団とこたつの天板が燃えているのを発見。調理用ボールで5、6回水を掛けるも消し止められず、屋外に避難した。

この住宅は全焼し、男性は初期消火時に顔面をやけどする怪我を負ったが、住宅用火災警報器がなければ、人的被害が拡大したものと推定された。

担当：予防課
連絡先：0226-22-6693